

2007年総選挙時の治安情勢 ～ 経験者から学ぶ**傾向**と**対策** ～



2013年 選挙の風景

経験者から学ぶ**傾向**と**対策**

1. 目的

2007年総選挙当時の在留邦人の経験を共有し、今回総選挙に対する準備の一助とする。


2. 実施要領

2007年当時、ナイロビに居住していた邦人4名に対し、兼田書記官が直接インタビュー。

3. インタビュー項目

(1) 当時の**経験談**

(2) 今総選挙で残留する邦人に対して**アドバイス**



まずは、

2007年大統領選挙のおさらい

2期目を狙う**現職大統領** 対 **オディンガ候補**
= **今回総選挙と同じ構図!**



キバキ第3代大統領
現職大統領(当時)
キクユ族

VS



オディンガ候補
ルオ族

2007総選挙のながれ

2007年12月27日

大統領選挙実施

2007年12月28日

オディンガ候補の得票が上回っていると報道

2007年12月29日

オディンガ候補が(まだ開票中に)勝利宣言。
開票速報が突然中断

2007年12月30日

選挙管理委員会がキバキ勝利と発表。
同日深夜、キバキの大統領宣誓式を強行。

12月30日～

選挙の結果発表と同時にキクユ族への暴力が相次ぎ、**部族紛争へ発展**。

両陣営の不正不満の訴えが続き**各地で暴動**が発生。

2008年2月28日

国連の介入により和解。

最終的な死者は1000人以上となった。

犠牲者と銃の比率

About 4 out of 5 deaths in Nyanza and Western were caused by gunshots.

Rift Valley



Western



Nyanza



Central



Nairobi



Coast



死者1133

経験者の証言

ここからが
本題です！

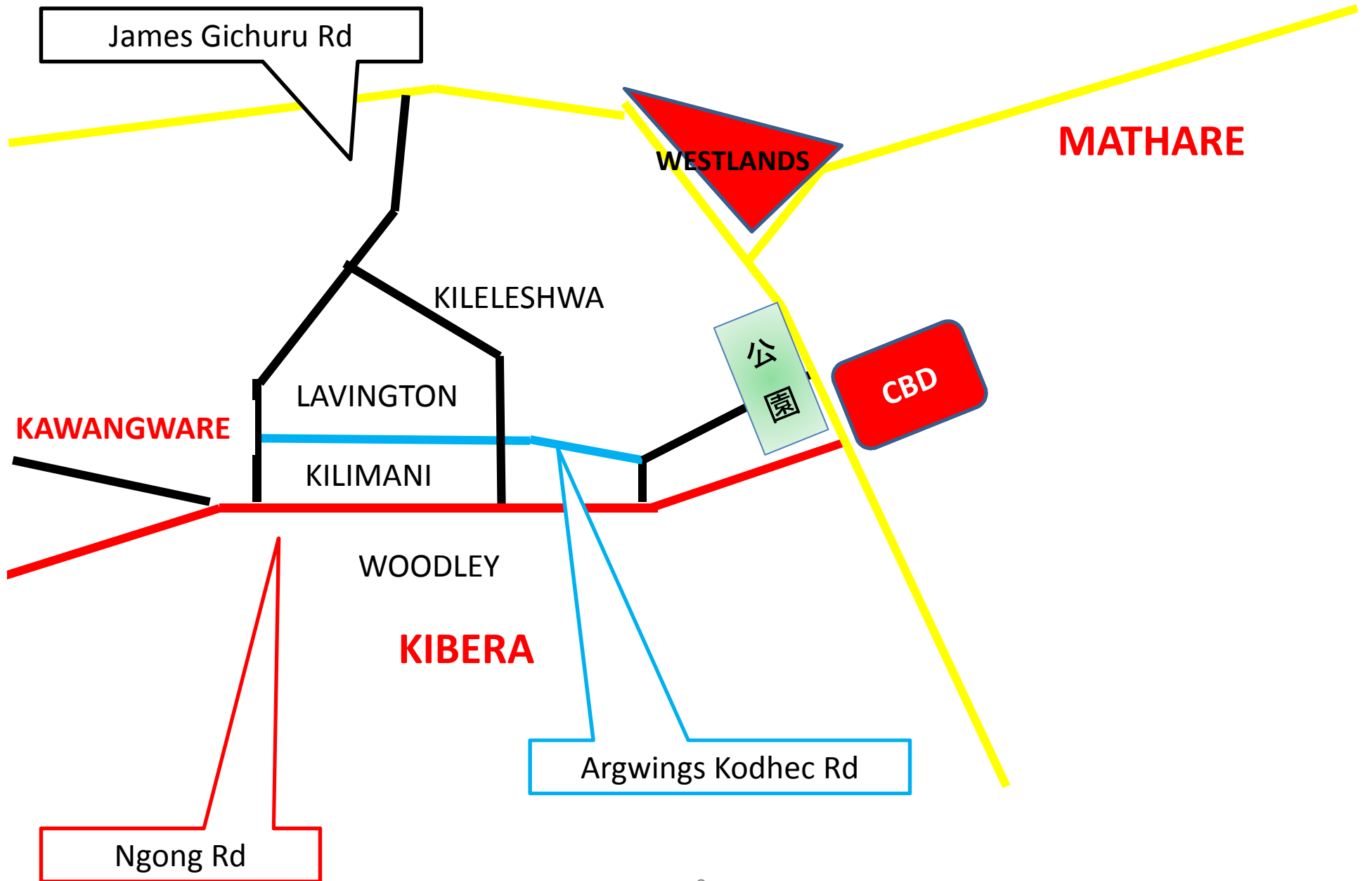
証言1 キレレシュワ在住の**女性**

証言2 キリマニ在住の**男性**

証言3 ラビントン在住の**女性**

証言4 ウッドリー在住の**女性**

注: 証言はすべて、証言者本人の主観と記憶に基づくものです。
事実と多少の差異があっても、証言者には何ら責任はありません。



証言 1

キレレシュワ在住 女性

1. 実際に自宅待機をしたのは12月31日から1月2日で、1月3日から出勤した。
2. ナイロビ市内で危険だったのはCBDエリア及び各スラムエリア。
3. スラム内では朝夜関係なく問題が起きていた。

4. キベラとカワングワレから出てくる**群衆が危険**であった。

5. 群衆が集まり暴動が起きるのは大抵昼間であった。朝の出勤時は通常どおりで、**昼間に群衆が暴れ**、夕方帰宅時には燃やされたキオスクや車の残骸を横目に帰宅した。

6. CNNもBBCも同じ暴動の映像を繰り返し流していた。

7. キオスクや商店への略奪はあったが、邦人の住宅に乗り込んでの略奪はなかった。

8. 1月6日にはナクマツトなどの主要ショッピングセンターは開店していた。

9. 不安に感じたのは数日間であった。

10. 日本人学校は始業式が1週間延び、3ヶ月間はスクールバスの発着が大使館となった。

11. 日本へ一時帰国した児童・生徒が何人かいた。

12.地方での虐殺の話に比べればナイロビは比較的平和だった。

13.地方にいた邦人はナイロビに戻って来れなかった。

14.雇っていたメイドがカカメガ(ケニア西部)にクリスマスで戻っていて暫く帰ってこれなくなった。

証言2

ラビントン在住 女性

1. 1月2日頃、ンゴング・ロードにあるウチュミで買い物ができたが、シャッターは半分閉まっていた。
2. アーグウィング・コデヘック上で投石があった。
3. 携帯電話は普段通りに使用できた。
4. 短期的にメイドが休んだ。

5. 仕事始めが伸びた。
6. ナイロビに避難していた人間が、地方に戻った際、**空き巣被害が発覚**した。
7. TVでは当初、各地の選挙速報が流れていたが、だんだん少なくなり、**最後は無くなった**。
その後**突然、キバキ再選**のニュースが流れた。
8. 暴動発生**当初は**TVで暴動の様子を放映していたがその後、**放送が無くなった**。

証言3

キリマニ在住 男性

1. ンゴング・ロード沿いにあるTOTALが襲撃にあっていた。
2. トイマーケットが焼き討ちにあっていた。
3. ケニアのTVは1日中、ドラマの再放送になった。

4. YAYA付近でタイヤが燃やされていた。
5. 1月3日ごろ職場に呼ばれ車で出勤し、緊急SMSを多数発出した。
6. キリマニ～アッパーヒル間の道路上は警察が多数いた。

7. マタツの運行が無かったため、カワングワレに住むメイドが出勤できなかった。
8. マタツの運行は1月3日頃から少しずつ再開されていった。
9. 集団の経路は大きく分けてキベラ発とカワングワレ発の二つであった。
 - ラリーがウフル・パークで行われる

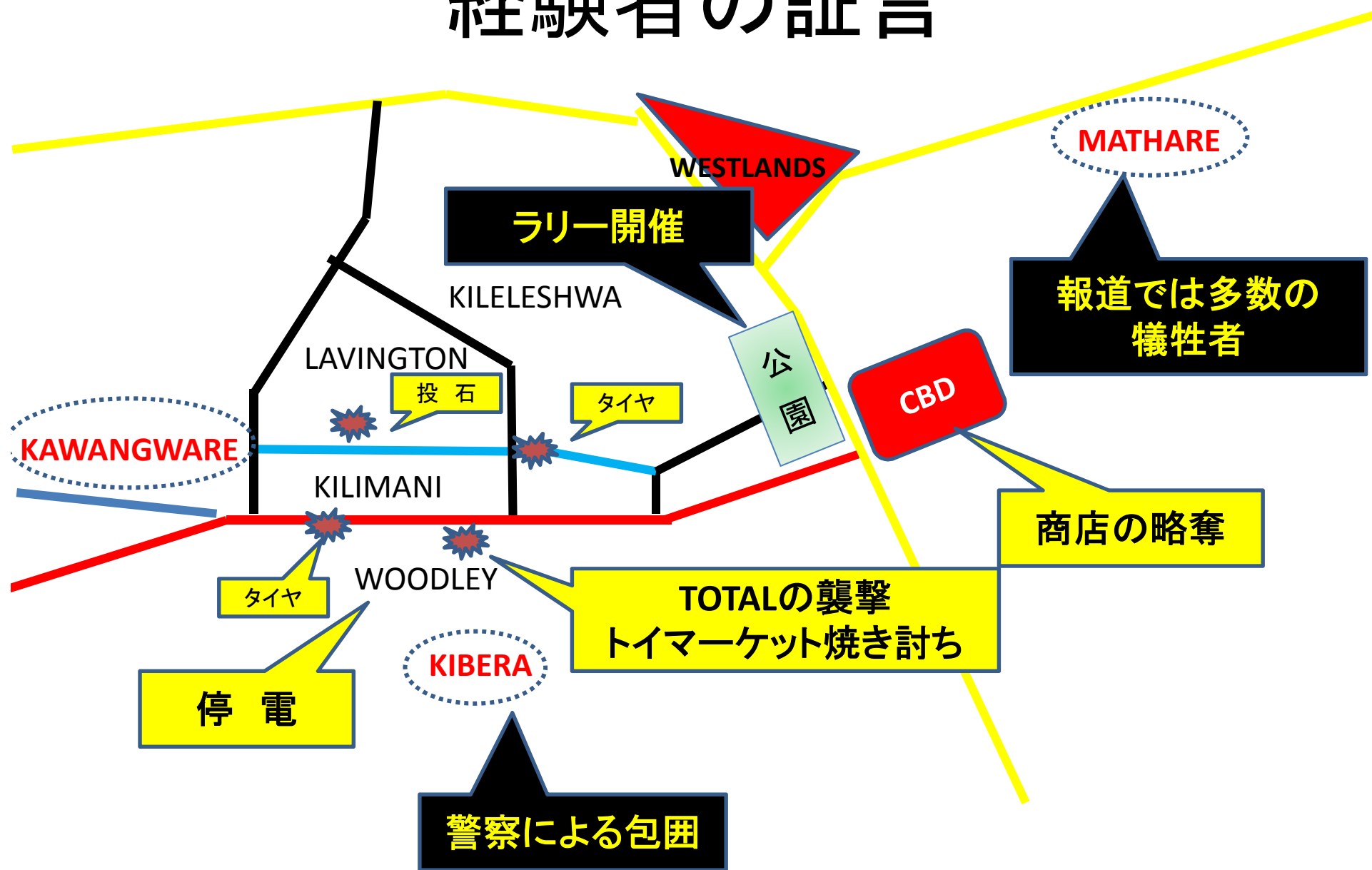
証言4

ウッドリー在住 女性

1. ジョセフカングセ・ロードでタイヤが燃やされていた。
2. パンガ(大きなナイフ)を所持した集団が歩いていた。
3. サファリコム・カードのダフ屋が出現した。
(100シルが400シルで売られていた)

4. **キベラ地区**では電気がとめられ、その影響がキベラ地区に近い**我が家も停電**となった。
5. 携帯電話が充電できなかった。
6. キベラ地区周辺とその連絡道路に武装警察が配置され、キベラ地区住人の囲い込みが行われた。
7. 暴徒鎮圧用の放水車が配置された。
8. 自分は一週間外出しなかった。

経験者の証言



経験者から得られた 傾向と対策

経験者から得られた傾向

1. キベラ・スラムに通ずるンゴング・ロードと、カワングワレ・スラムに通ずるアーグウィング・コデヘックが荒れる傾向にある。

→ ラリーの開催がウフル・パーク

2. キベラにはルオ族、カワングワレにはルイヤ族

→ キベラとカワングワレに野党支持者が多い。

→ マザレ・スラムはルオ族とキクユ族が拮抗している。

→ 今選挙で、野党が負けるとキベラ、カワングワレ、マザレが荒れる可能性がある。

3. マタツの運行は、車両の持ち主の判断によるため、今選挙時も**運行本数が減る可能性がある**。その場合、ドライバーやメイドが通勤できない。

4. 居住地域によっては**電気が止められる**。

→ 特にウッドリー地区

5. 選挙速報の放送中断は暴動発生の予兆となり得る。

6. **地方部**で移動手段が車しかないところは、道路が閉鎖された場合、**移動が困難**となる。

経験者からのアドバイス(対策)

1. 外出すべきか判断に迷ったら自宅にとどまる！
2. 必要なモノの備蓄
 - (1) 停電になっても(冷蔵庫なしで)保存できる食料
 - (2) トイレ、風呂等の生活用水
 - (3) 携帯電話やiPad等のプリペイド・カード

経験者からのアドバイス(対策)

3. 情報収集

(1) TV、ラジオ、インターネットの視聴・閲覧

→ 大使館からも適宜**情報発信**します！

(2) ドライバーやメイドも場合によっては通勤出来なくなる可能性があるため、事前にドライバーやメイドの投票所や**行動予定**を把握しておく。

→ 投票のため田舎に**帰省する可能性**アリ！

経験者からのアドバイス(対策)

4. ラリーが行われる場所やそれに向かう人々の経路には**絶対に近づかない**。

5. 自宅を離れ避難する際も、**しっかりとした施錠と貴重品の管理を!**